

5月号

School Aid Japan Cambodia

スクール・エイド・ジャパン・カンボジア



Dream通信

2008. 5. No.2

4月13日に初めての課外活動に出かけました。 ～クメール正月にウドンに山登りへ～

「夢追う子どもたちの家」の子どもたち32人と職員・スタッフ8人は、4月13日にウドンへ初めての課外活動（遠足）に出かけました。園からウドンへは国道5号線を南下し、車で約2時間半のところにあります。中型のバスを一台レンタルして、お揃いの黄色いシャツで出かけました。初めてみんなで遠足ということもあり、行きのバスは大盛り上がりでした。ウドンはカンボジアの昔の都があった場所で（1618年頃～1866年頃まで）その各時代の王が住んでいました。そのためその頃に建設された多くの寺院が残っており、現在はカンボジアの観光地の一つとなっています。道脇には多くの露店があり、当日もたくさんの参拝客で賑わっていました。丘の上にある寺院や仏塔を見るには、階段を上って行かなければなりません（階段数は509段）。バスを降りた子どもたちは、お昼に食べるお弁当とペットボトルの水を受け取り、一段一段階段を上がって行きました。乾季のカンボジアで、気温は35度を超えるなか職員は小さい子を気遣いながら、また年長のお兄さんは予備の水や、小さい子のお弁当、そしてみんなのおやつを持って頂上まで上がりました。丘の上まで上がると、涼しい風が吹き、周囲の水田や草原などが一望できる、素晴らしい景色でした。子どもたちは暑さもしばし忘れて、丘の上から地平線まで広がる雄大な景色に、しばらくの間見入っていました。頂上にある仏塔でお参りをした後は、休憩所でお弁当の時間です。頂上まで歩いてきたので、みんなお腹がペコペコで持ってきたお弁当はすぐになくなり、お替りをする子もいました。お昼休憩後は、もう一つの丘の上にある、仏教寺院の遺跡を見学して下山しました。帰りのバスは疲れのためかみんな寝入ってしまい、行きのバスとは違いとても静かでした。初の遠足でしたが、具合が悪くなった子もおらず、無事に園に戻ることができました。今後も自国のカンボジアの歴史や遺跡に触れることができる課外活動を取り入れていきたいと思っています。



出かける前にみんなで記念撮影。さあ出発です。



階段を上がる子どもたち。頂上はもうすぐです。



地平線まで広がる景色に見入る子どもたち。

～クメール正月の4月14日はお寺にお参りに行きました～



荷台に乗りこみ、ポーサットの州都まで行きました。



立派な寺院の外観。他にもいくつも建物があります。



たくさんの人たちが参拝に訪れていました。

クメール正月はカンボジアの人たちにとって、新年を祝うための大切な日です。2008年は4月13日から15日までが、カンボジアではお正月でした。多くの人たちは自分の故郷に戻り、家族と共にお正月をむかえ、寺院へのお参りをします。通常寺院へは、お坊さんに寄進するお弁当を持参し、お経を上げてもらいます。カンボジアの約9割の人は上座部仏教を信仰しており、4月のお正月と9月のお盆の時期に、家族や親戚と寺院に行くことをとても大切にしています。お正月とお盆に帰省し、家族と共に過ごす日本の習慣にとってもよく似ています。「夢追う子どもたちの家」の子どもたちと職員は、4月14日にポーサット州の州都にある、コンサー・パイティ寺院へ参拝に行きました。この寺院はポーサット州内でも大きく有名で、寺院は日頃からたくさんの家族連れが訪れています。敷地内には大きな仏像がある寺院や、仏陀の壁画がある建物など、いくつもの建物があります。寺院参拝の当日はトラックを一台レンタルして、子どもたちと職員は荷台に乗り込みました。前日の遠足に引き続き、この日も外出のため子どもたちは大喜びでした。朝の8時30分に園を出発して、トラックの荷台で風を切りながら約40分かけてポーサットの州都に向かいました。寺院に着くとまず、敷地内にある建物の中で、子どもたちはお坊さんからお経を上げてもらいました。みな手を合わせて、真剣な表情でお経を聞き、お祈りをしました。その後は別の建物で、持ってきたお弁当をお皿に移して、お坊さんへ寄進をしました。一通りのお参りが済んだ後に、敷地内にある小さな動物園を見学しました。九官鳥の鳴き声や、孔雀の立派な羽に、子どもたちは興味津々の様子でした。今回の正月は、子どもたちは園に来て日が浅いことから帰省はしませんでした。今後はお正月とお盆の時期は育ての親元へ帰省して、自分たちが育った故郷で過ごす予定です。



お坊さんにお経を上げてもらいました



手を合わせてお経を聞く子どもたち。



寺院の敷地内にある小さな動物園。